



○令和4年度入学式講話(抜粋・一部改変)

小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志、～自立した大人となるために～

歴史と伝統のある学校の生徒として、本日その第一歩を踏み出すわけですが、ここでの三年間で、社会のどこかを支える、なくてはならない自立した大人へと成長していくことになります。

そこで今日は、「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志～自立した大人となるために～」という言葉を送り、式辞としたいと思います。これは、昨年度から学校の合い言葉としているものです。

毎日少し成長した自分に出会うのが楽しみになるような小さな挑戦・取り組みを日々繰り返してください。勇気を少し出して小さな挑戦をし、取り組みを続けてください。挑戦に失敗はつきものですが、努力の過程や失敗から学ぶことで人は成長します。三百六十五歩のマーチという歌にも「三步進んで二歩下がる」とあります。小さな一歩の積み重ねが人を成長させます。千里の道も一歩からです。

小さな気遣いという言葉をつけたのは、人を思いやる気持ちを持つことで、心にゆとりができ、自身の生活や取り組みが充実したものとなるからです。その逆もありです。自己中心的にならず、他者を気遣ってください。気遣いにあふれる学校は、「安心して失敗から学ぶことができる学校」とも言えます。誰かの役に立ちたい気持ちや人を大切にする気持ちは人を確実に成長させます。

道ばたのゴミを拾う…なんでもよいのです。それは、誰かが気持ちよく道を歩くための気遣いであり、自分以外の誰かを大切にするということでもあります。マスクの着用や挨拶も同じです。マナーや挨拶は、他者を気遣うふるまいです。

小さな挑戦、小さな気遣いは、自分の限界を少し超えた目標設定とそのための大きな志を持つことから始まります。それが努力の過程を充実したものとし、大きな志だからこそ、結果以上に、努力の過程で自分に手応えを感じます。その過程で失敗や挫折があっても、その都度達成感が生まれ、次への意欲が沸くはずで、未見の我、成長していく自分との出会いが何度もあるはずです。

求める生徒像は、本校「志をもって粘り強く努力し、自らを高めようとする生徒」・分校「何事にも志をもって意欲的かつ誠実に取り組むことのできる生徒」です。みなさんならできると信じています。

最後に、ここにいる新入生が、三年後に自立した大人として卒業していけるよう、保護者や地域と連携しながら教職員一丸となって尽力することをここにお誓い申し上げ、式辞といたします。